

带状疱疹と予防ワクチンについて



ここ数年、当院においても带状疱疹に罹る患者様は増えてきている印象があります。患者様の中にも、带状疱疹ワクチンに興味をお持ちの方や、実際にワクチンを接種する患者様も増えているため、今回は当院で取り扱っているワクチンの説明も含めて紹介させていただきます。

■なぜ、带状疱疹は増えているのでしょうか？

带状疱疹はもともと高齢者に多く、高齢化によって増加傾向にあると言われていました。

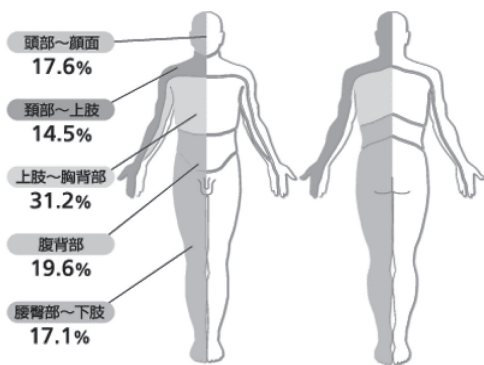
さらに、2014年以降、小児の水痘ワクチン定期接種が開始され、水ぼうそうの流行が激減したことで、大人がウイルスに接する機会が減り、免疫が低下していることも増えている理由の一つと言えます。日本では、50代から带状疱疹の発症率は高くなり、80歳までに約3人に1人が発症すると言われていました。

■では、带状疱疹とは、いったいどのような病気なのでしょうか？

水ぼうそうの原因と同じ、水痘・带状疱疹ウイルスによって皮膚の痛みや発疹などが起こる病気です。初めて感染したときは、水ぼうそうと

して発症し、治った後もウイルスは体内に残ります。普段は免疫によって抑えられているため症状は現れませんが、加齢や疲れなどで免疫が弱まるとウイルスが再び活動し始め、带状疱疹を発症します。

一般的に皮膚の発疹などが出る数日〜1週間ほど前から、ピリピリとした痛みが起り、皮膚の赤み、水ぶくれ、強い痛みが3〜4週間続きます。带状疱疹の多くは、体の片側に带状に胸や背中に現れることが多いですが、顔やお腹、手足などに発症することもあります。



石川博康ら：日皮会誌, 113(8), 1229 (2003) 改変

■带状疱疹後神経痛という症状をどう存じますか？

带状疱疹後神経痛とは、带状疱疹の発疹が消えた後も長期的に続く痛みのことです。一般的には带状疱疹発症後、3〜6か月以上経過しても続く痛みを指し、その痛みは「焼けるような、刺されるような」痛みと表現されることもあります。年齢が高くなるほど、この带状疱疹後神経痛への移行率は高くなると言われています。

ここまで読み進めると、『带状疱疹になりたくない！』と思った方は多いのではないのでしょうか？ ここからは、当院で取り扱っている2種類の带状疱疹ワクチンについて説明したいと思います。

当院で取り扱っている带状疱疹ワクチン		
名称	弱毒性水痘ワクチン	シングリックス
ワクチンの種類	生ワクチン	不活化ワクチン
接種対象	50歳以上	50歳以上
接種回数	1回	2回
発症予防効果	50%程度	90%以上
神経痛予防効果	65%程度	90%程度
効果の持続期間	5年程度	9年以上
費用	8960円	21360円×2回 (合計43000円)

接種回数や予防効果、持続期間などそれぞれに特徴がありますので、選択の参考にしてください。また、接種対象は50歳以上となっておりますが、近年では20〜40歳代の若年層での発症率も増えています。ワクチン接種以外にも、食事のバランスに配慮し、十分な睡眠をとるなど、できるだけ健康的な生活習慣を保ち、免疫力を高めることが有効と言われています。そのため、ご自身の生活の振り返りの機会となれば幸いです。

最後になりますが、私自身も過去に手のひらにできた発疹を放置し、発疹が消えた後に、夜間目覚めるほどの痛みを経験したことがあります。带状疱疹の治療は、より早期の抗ウイルス薬の投与が重症化や合併症の予防効果があると言われていたため、痛みを伴う発疹が出たときは早めに受診しましょう。

(院内感染対策委員 高田寛子)